

平成24年度 第1回徳島県発達障害者支援体制整備検討委員会 議事録

1 日 時

平成24年11月13日(火)

10時30分から正午まで

2 場 所

県立みなと高等学園 ハナミズキ棟3階 研修室

3 出席者

【委員】(23名)

橋本俊顕、井崎ゆみ子、秋田清実(代理出席)、大谷博俊、奥田紀久子、磯部久子、島治伸、堀内宏美、椎野栄、鎌村好孝(代理出席)、平島誠司、石元康仁、高木雄二、新居清一、川端恵子、多田優子、徳山富子、吉田朝子、美馬恒子、飯田ひとみ、大木元繁(代理出席)、金磯和美、桑原波枝

【事務局】

障害福祉課、発達障害者総合支援センター、教育委員会特別支援教育課

4 会議次第

i 開会

ii 委員紹介

iii 挨拶

iv 議事

(1) 発達障害者総合支援ゾーンの取組状況について

(2) その他

(事務局より「発達障害者総合支援ゾーンの取組状況」について説明)

【会長】以上4施設から、それぞれ説明を受けましたが、只今の説明につきまして、各委員の皆様方のご意見、ご質問、お聞きしたいと思います。よろしくお願い致します。いかがでしょうか。はい、お願い致します。

【委員】説明を伺いまして、素晴らしい充実したゾーンになったなと思って、大変嬉しく拝聴いたしました。そのなかで、それぞれが、連携をとりながらと仰っているんですが、どういうふうな連絡、情報交換をしていらっしゃるのかなど。

【事務局】ゾーンでは毎月1回、定期的に連絡会議を開催しております。そのなかで、一緒にできるイベント、先日ありました、「ひのみねの秋祭り」、「乳児院のお祭り」とかいうふうに、一緒に盛り上げるなり、それから、いろいろな啓発事業等についてもですね、できるなかでやっていく分もごじますし、研修事業なんかについても駐車場とか施設の貸し借り、講師の相互派遣みたいなかたちを中心に、今、できるところから、連携をとっていこうというふうに考えて進めているところでございます。

【委員】どのような方々がお集まりになるんですか。

【事務局】4施設の代表者が集まるというような。

【会長】はい。他にご意見ございませんでしょうか。ご質問なりありますか。

【委員】このような所ができて本当に有り難く思っています。みなと高等学園ができることによって、就労への道がひらき、また、すでに社会にでてしまった方からも、悩みっていうのをこう、自立相談にかかってくるのがあったんですけども、つい最近は、その、発達障害者総合支援センターのほうの集まりに行って、ピザを作ったとの方が仰ってましたけれども、非常に、その、なんかこう会話がするんだ、進んだわけではなくけれども、共に同じ時間を過ごすことができ、非常に良かったっていうお話を伺いました。こういうことが、すぐにはどんどん発展するわけではないかもしれませんが、こうやって一つ一つ増えていって、こんな素晴らしいものができたっていうことを、すごく感謝しています。ありがとうございました。

【委員】自閉症協会というところは、いろいろ話しをしに来られるので、こういうのが立ち上がってくる一方で、親が抱えて自閉症協会に来る悩みっていうのが、実はまあ、私が幼少期の頃に抱えていた悩みと、実は同じ悩みが多いんです。それで、その悩みを聞いたことと、これだけ発展している、このゾーンの仕組みとのギャップを実は感じています。

【委員】私の子どもは知的に重度なんですけれども、やっぱり知的で重度の子どもたちは、

いつまで経っても文字や数字やそういうところの学習に入っていけないし、生きていく力もなかなか付かなくて、その、先が見えているっていう、小さい時からの悩みをお母さんが不安がって、そのことをお話しになられます。支援学校のほうの体制も非常に良くなって、受け入れが良くなって、親が排斥されたり、子どもが辛い目にあうことはなくなってはいるんですけども、その、卒業後の場所ですね、入所施設、それから、A型・B型、そしていいところの施設さんも早々と満杯になって何人も待っておられる。実はうちが来年社会に出るんですけども、その次の年は、受け入れられませんっていう施設がたくさんありました。このあと続いてくる子どもたちは、いったいどうなるだろうという不安があります。中機能、高機能の子どもたちも、私たちが見ていた時代よりも早くに、わりと早期といいますか、小学校高学年ぐらい、中学ぐらいから早々と特別支援学校のほうにかわっていったような印象を受けます。中学校のほうも大変なんだろうと思いますけれども、早々とそっちのほうを勧められたりとか、その子どもたちがどこで躓くかというたら、やっぱり、教科学習、数学とか国語のあたりで。実は不登校があるんですけども、よくよく話しを聞いてみると、記憶力でなんとか小学校の中学年ぐらいまでやってきたけれども、そこからやっぱり理解が追いつけなくなって分からなくなって、不登校になっていますっていうことを聞くんですね。そうなるとうと、やっぱり支援学校に行く。支援学校に行ったら教科学習があるかという、やはりなくて。まあ、就労のために道をひらいてくれるんでしょうけれども、計画を見てると、施設のA型・B型に、こう人数が増えてきているように思うんです。みんなが非常に楽しく居場所が良くなって、排斥されることもなくて、環境が良くなってっているんですけども、さて、学校卒業後あと2年後3年後、いったいどうなっていくのかなっていうのが、私たちの今の実感です。

【委員】 実際、今こういうゾーンが立ち上がったところですし、それから、みなと学園のこのようなお話しを聞きまして、これからきっと変わっていくだろうと思います。みなと学園の、そのノウハウを他の支援学校にも伝えてくださることによって、子どもたちの行く末が変わってくるってことを願っています。そうなるだろうと期待もしています。まあ、今はちょっと、そういう現状とのギャップがあることを感じていまして、私たちが望んだ「教育の質」というか、その、もう本当に分かりづらいんですけども、分かるように教えれば、皆さんも実感されてると思うんですが、いわゆる一般の知的障害の子と違って、分かればそこから記録して積み上げていくことができるんですね。ただ不器用で、体が不器用でって言うけれども、それを熟練してひとたびそのコツを掴めば、そこからそれが使えるようになっていくんです。だけど、早々に、まあ、うちの息子ももちろんタブレット型のような端末使ってましたけども、早々にそちらに移行して、不器用だと一層使わない感じになってしまったり、不器用さをそのままに大きくなっていてるお子さんも実際にいます。そういう高機能の子どもが、今もひきこもりになっているんですが、その子の（場合は）「僕は手が不器用だから字が書けないから恥ずかしくて、字が書けないんです。」って、近くに住んでるおばさんなんですけど、私に訴えるんですね。麻痺しているわけではないし、うちの息子に比べると、ずいぶんいろんなことができるのに、どうしてそこに気づいて、こう細かく指導してきてあげなかったのか

なって、非常に、胸が痛みます。あの子たちは麻痺しているわけではないし、理解できないわけではありません。だから、どうぞ、教育してあげる、手をひらく、体を鍛えてあげるチャンスを与えてほしいと思うんです。理解が進むがゆえに、むしろ、保護してしまう環境を非常に危惧しています。その辺見極めるのが、非常に難しいと思うんですが、是非その難しさ、分かりづらさは理解したうえで、いろんなことを教えぬいてあげようような教育を是非お願いしたいと思います。

【会長】 どうも、ありがとうございます。この、その他にご意見ございませんでしょうか。はい、お願いします。

【委員】 2年程前から、代理で出席させていただきながら、非常に素晴らしい取り組みだというふうに思っておりました。そこで、一点ちょっとお伺いしたいことがあるんですけども、みなと高等学園の方なんですけど、先ほどの、お話と少しかぶるところがあると思いますけれども、今後の学校教育というか、インクルーシブの視点での教育を進めていくということを今言われておりますけれども、ここの高校の、在学の生徒さんと、他の高校の生徒さんとの交流とか、そういう点での取り組みは、どのように、これから進めていかれるのでしょうか。よろしくをお願いします。

【みなと高等学園】 高等学校とみなと高等学園の交流についてということなんですけど、やはり、交流及び共同学習という、非常に重要であるというような、小松島、小松島高校、小松島西高校がちょうど近隣にごございますので、たとえば、部活動では、ちょうど小松島西高校に専門学科が設置されておまして、その授業に参加させていただいたり、または来ていただいたりというようなことで交流が進んでいくというような。部活につきましては、若干、もう始まりかけています。

【委員】 ありがとうございます。ここの生徒さんにとっても大切なことだと思いますし、それから、他の普通の高校の生徒さんにとっても、やっぱり、そういう同級生がいて、あの人たちが、こう、いるということを学ぶという点でも、とても大事なことだと思いますので、是非よろしくをお願いしたいと思います。

【会長】 どうも、ありがとうございます。その他、あと一件ぐらいご意見を、ご質問なり、はい、お願いします。

【委員】 本当にこういった素晴らしいゾーンができたことを感無量の気持ちがしております。けれども、そのなかで一点、先ほどの保護者の方からですね、ご質問があったのですが、保護者の支援やご本人の支援っていうのは、かなりこの事業のなかで盛り込まれていて、そして乳児院のほうで「預かり支援」ということで、ご兄弟ですね、その支援をされているという報告がありましたけれども、本人、そしてご家族、保護者なんですけど、それと兄弟ですね、その支援っていうのは、まあ、とりわけ、重点的に取り上げられてきているわけなんですけども、そういったあたりにですね、特にご兄弟ですね、まあ、姉

妹を含めての兄弟、まあ、平仮名で書いたりもしますが、そういったところの支援に関して、今後ですね、どのように、お考えになっているのかというところ。また、教育関係もそうだと思うんですね。ご兄弟のご本人にとっては、支援というのを非常にこう重点的に手厚く、あるいは保護者に関してもご相談をということなんですが、その、ご兄弟ですね、特に通常の学校のなかで、そのご兄弟に関して障害のある兄弟をお持ちのご兄弟ですね。そういった方への、教員の、その支援っていうんでしょうか、理解という視点というのは、これから、非常に大切になってこようかというふうに思うんですけども、そういったあたりですね、まあ、前者の分だけでも、もし、分かる範囲でございましたら、教えていただければと思うんですけど。

【事務局】 いわゆる兄弟児支援というようにお話だったかと思います。兄弟児支援について、まあ、具体的に今後どうしていくというところまで、方針といったものは、現在、持ち合わせておりませんが、一方で、そういった相談のなかで、ニーズがあるということであれば、なんらかの手法をですね、取り入れていかなければいけないのかな、と認識しております。もうちょっと相談の内容を分析したうえで、検討していきたいと思っております。

【会長】 まだまだ、たくさんご意見、ご質問があろうかと思いますが、ちょっと時間もタイトでございまして、この議題につきましては、この辺で、閉めさせていただきたいと思いますが、只今、委員の方々からいただきましたご質問、ご意見を、やはり今後、この「ハナミズキゾーン」の運営に活かしていただきまして、さらにこのゾーンが進歩することを願っております。

先程のご意見から、先程の同胞のことも非常に大切ですし、やはり同胞の場合の、やはり、あの、軽いけども同じような状況にあるという子どもさんも、案外おいでますので、そこら同時に、どうしても、少人数で、家族内では見つかりにくいところも、乳児院で預かっていた時に、他の児童と子どもさんと接触してる行動なんかも、できたら、観察していただいたりとか、これからの問題ではありますが、そういうことで、そういう子どもさんの困難さも見つかる場合もあろうかと思っておりますので、また、よろしくお願ひしたいと思ひます。

それから、相談件数も、ちょっと乳児の相談件数が一時減って、少し持ち直しておりますが、高校生とかの相談が増えてるということは嬉しいことですが、本当は、あの、乳児の相談がもっともって増えて、早くに見つかって、高校ぐらいから問題に、たぶん多くの方は、保育所、幼稚園とかで、やはり小さい時にいろんなトラブルが多いお子さんが多くて、その時期にある程度予想される方も相当数おいでると思ひますので、本当は高校、中学校で見ても明らかになってくるより、もっと小さい時期に明らかにして対応していければというふうにも考えております。また、そこの啓発運動とかも、またよろしくお願ひしたいと思ひます。それでは、その他、委員の方々からご意見がございましたら、はい、お願ひ致します。

【委員】 すいません。私の個人的意見なのかもしれませんが、就労等に繋ぐってことで、

いわゆる産業系、労働系との連携を、より一層お願いしたいということと、要望的に ICT 活用ってというのが、言われておりますので、そのへんもお願いしたいなど、意見でございますけど、よろしく申し上げます。

【会長】 どうもありがとうございました。その他にご意見ございませんか。はい。お願いします。

【委員】 先程、先生の方から、乳幼児等で早く発見できてというふうなご発言もあったんですが、母子保健において、保健師や市町村等で、乳児検診、1歳半、3歳児検診を行っているんですが、先程、アセスメントツールで、M-Chat の導入であるとか、まあ、そのへんも、普及していただいでですね、ある程度のスキルを上げていくといいますか、やっぱり現場では、非常に難しいんですね。親御さんに不安も、どのように理解をしていただくかっていうなかで、かなり保健師等は悩んでおりますので、支援もお願いできたらと思います。

【会長】 M-Chat については、国立精神・神経医療研究センターのほうで進めておりますが、その講習も毎年一回、開かれておりまして、私も時々講師として行っておりますが、そういうところ、多少、市町村によって温度差が案外ありますので、そこの均一化というところも、できれば高いほうへ均一化していただいで、是非進めていただければと思います。

他にごございませんでしょうか。なければ、この後、このゾーンの施設の見学もございますので、本日の議事は、この辺で閉めさせていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。それでは、本日の委員会の議事全てを終了することにさせていただきます。